

情報通信月間参加行事 実施報告書

行事ID	C087	行事名	令和3年度「電波の日・情報通信月間」記念講演会	
行事形式	総合イベント ICTセミナー	主催団体	関東総合通信局 及び 関東情報通信協力会	
開催日	令和3年6月1日(火)		開催場所	関東総合通信局 会議室
行事参加者数	約170名		WebサイトURL	https://www.soumu.go.jp/soutsu/kanto/press/2021/0510kk.html

行事実施概要・アピール等

総務省関東総合通信局は、関東情報通信協力会との共催により、令和3年6月1日(火曜日)に令和3年度「電波の日・情報通信月間」の行事として、「宮田 裕章 慶應義塾大学教授」をお迎えした「デジタル革命の先にある新しい社会」と題する記念講演会をオンラインで開催しました。

本記念講演会には、関東情報通信協力会会員及び一般参加者170名を超える多くの方々に聴講していただきました。

【主催者挨拶】10:50～11:00

総務省関東総合通信局長 椿 泰文から、電波の日・情報通信月間に当たり、本記念講演への参加の御礼を述べるとともに関東地域における電波利用の発展及び情報通信の普及・振興に貢献された7個人及び6団体の方々に表彰したことを報告して敬意を表しました。

次に、関東総合通信局が現在取り組んでいる主な施策として、コロナ禍において安心して様々な活動ができるようにサポートするための「地域課題解決策提案会」、「テレワーク導入ミニセミナーの開催」及び「ローカル5Gの概要」等の概要を説明しました。

【記念講演】11:00～12:00 ～デジタル革命の先にある新しい社会～

講師：慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室教授 宮田 裕章氏

概要：

産業革命以降、我々は経済合理性市場主義というものを大きく掲げてきたが、これからはそのようなやりかたでは世界をまわしていくことは困難であり、新型コロナによる命の問題、人権や格差の問題、環境問題など様々な軸の中で、世界を考えていく必要があるだろうという点が人類の大きな課題となっている点について、種々の資料を通して述べられ、今後は持続可能な未来、公平な社会に転換することが求められている。

そして、日本は高度成長時代には非常に成長・成功はしたものの、その時の成功モデルというものが社会にフィットしすぎたため、今日のデジタル革命への移行に遅れが生じていると指摘。日本の歴史にとっても大きな転換期をもたらすものがデジタル革命であることに言及されました。

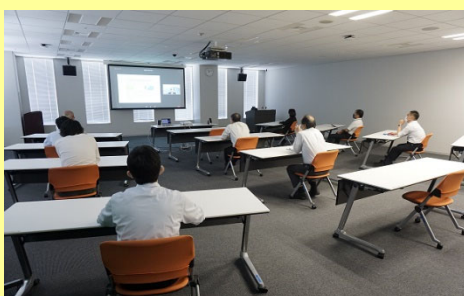
今までは、個人個人の情報を把握することが困難であるとしてきた視点の克服を可能にするのがまさにデジタル技術である。例えば、ものづくりについては、今後は単に物を作るだけでは通用しなくなる。データを使いながら人と価値を一緒に作るのかという点にシフトしつつあり、医療分野でも同様な状況にあると述べられ、結論としては、「最大多数の最大幸福から最大”多様”の最大幸福へ」の時代への移行が必須であり、データの選定と収集には戦略が必要。分野横断的に未来を描く力が、その地域の力につながっていく。と述べられ講演を結ばれた。



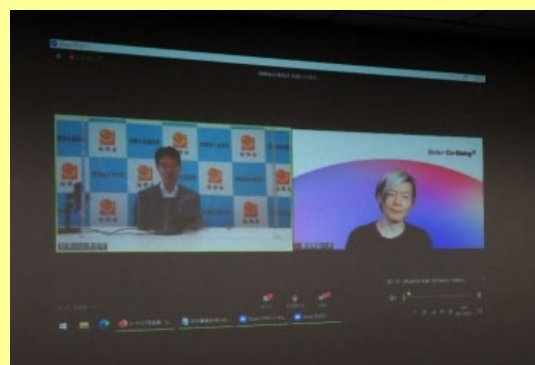
関東総合通信局長 椿 泰文



慶應義塾大学教授 宮田 裕章



講演会を聴講する職員



椿 局長と宮田 教授によるQ&Aの様様